

俳諧  
古今

發句千二百題

小箬庵雄嶺輯

春



小菴菴雄嶺輯  
過日菴祖紹補校

俳諧

古今

發句千二百題

東京書林

萬笈閣藏梓

何事可道哉素素先哲の此を多しなり形より若輩の  
事之尤も其天祐孫素のと當面を鏡抄するれも時  
志事如以て於て其心多きを数事をもふとを何れ業  
多し事如以て其心多きを数事をもふとを何れ業  
以金抄各其中一紙用括以申尔字如をかりる形わ  
満して詞如遊心は其心多きを数事をもふとを何れ業

志をらば環結字を羅表試あらざる希加如くせしむれば  
前結少兼莽う燈の中を形あるまよし思ふる懸後試  
集め改りしち夏妹の之事を形刻成て冬り形平  
金久を及くくくお人のかある入る後書妹の庫中よ  
籠阿くくく城む形くく況新をせまもあ忘形くくやて  
此はるる日度中くくくくくくく 補綴すくくくくくくく

種をそらぬれ是口酒の同くくくくくくく亦撰者の取也  
ゆき羅ぬと形帯くくく希表あらむ確る形を耳の形平  
あくあやくく流り 形似く 初命試くくくく流り  
あききく 時時形やを抄く携くくく也くくくト早ら  
くくく抄くあくくくくくくく當付を志羅る平 幸  
以てあやあひの事 校合試備くくくくくくく形表 笑

春の初日... 花の初... 春の初... 春の初... 春の初...

為經老人由誓以

信父堂



發句千二百題春の巻

春之部

元日	一	立春	一	明春	二	今春	二
花春	三	春の始	三	春代春	三	春代春	四
春の始	四	日の始	四	元方柳	四	年立	四
春來	四	春の始	四	初春	四	初鳥	四
初空	五	初日	五	病の春	五	四方の春	五
春書	五	春始	六	春初	六	春書	六
春書	六	春始	六	三日月	六	春書	七
い初春	七	い初春	七	初春	七	初春	七
實初	八	年立	八	去年今春	八	門松	八
門傍	八	任連傍	八	傍中	八	初傍	九

福佛	薯	佛坐	七種	初子日	破子日	傀儡師	娘の志	元方	蓬萊	糸一着	饒海老
十八	十七	十七	十五	十四	十二	十一	十一	十	十	九	九
番卸	福寿州	古史屋	若菜	山形引	子籾	稻の内	茶菜	羊男	管積	裏白	饒炭
十八	十八	十七	十五	十四	十二	十一	十一	十	十	九	九
初芝居	別掛	虫形	蘇	氷祝	西月	福引	考追	知多始	唐龜	鏡餅	種儀
十八	十八	十七	十六	十四	十二	十一	十一	十	十	九	九
爆竹	心正月	惠具	芹	人日	唾月	羽子	猪食	節志	雜煮	尺福	福菜
十九	十八	十七	十七	十五	十三	十二	十一	十	十	九	九

三葉芹	初芝	柳	春餅	冬餅	春雨	糸函	暖	鐘表	雪月	春雪	冬雪
廿八	廿六	廿三	廿九	廿八	廿七	廿五	廿四	廿三	廿一	二十	十九
菜苗	若菜	芽柳	落葉	下着	畑市	陽美	春日	佐保姫	氷解	淡雪	絲寧
廿八	廿七	廿六	廿	廿九	廿八	廿五	廿四	廿三	廿一	二十	十九
猫意	梅	梅	梅	若竹	田市	東那	永日	長菜	初表	残雪	春雪
廿八	廿七	廿六	廿一	廿九	廿八	廿六	廿五	廿三	廿一	二十	十九
若館	嫁菜	梅種	節梅	若芝	末芽	春那	連日	煮	煮	雪飯	研返
廿九	廿八	廿六	廿二	廿九	廿八	廿六	廿五	廿四	廿二	二十	二十

白魚	此九	鶯	四一	鶯	四一	雲雀	四一
百子鳥	四二	鶯鳥	四二	鶯	四二	鶯	四二
刺	四三	海苔	四三	鶯	四三	鶯	四三
二月	四三	如月	四四	事始	四五	初年	四五
彼岸	四六	水口魚	四六	浸藥	四五	西行忌	四六
積塔	四六	二日賣	四七	種御	四七	苗代	四七
春令	四七	油虹	四八	春の月	四八	雛月	四九
春夜	五〇	春の宵	五一	柳	五一	五加木	五二
梅の芽	五二	獨活	五二	菜花	五二	春麥	五二
久根花	五三	席杖	五三	萱草	五三	蕨	五三
蒲公英	五四	芦角	五四	芦芽	五四	土草	五四
雛子	五五	杉葉	五五	馬破木	五五	橘花	五五

山燒	五五	赤黒糖	五五	乙子	五六	雛子	五六
鴉尾	五七	雀子	五七	引鴨	五八	小弓引	五八
鳥交	五八	春子	五八	春葉	五八	蛙	五九
暮	五九	田螺	五九	初蝶	五九	蝶	六〇
菰角	六〇	春海	六一	春の雪	六一	春山	六一
水暖	六二	春川	六二	春水	六二	春燈	六二
流生	六三	雛	六三	夕子	六三	桃	六四
花を待	六五	初花	六五	花	六五	初梅	六八
梅	六九	山梅	七二	八重梅	七二	逢梅	七二
揚翹	七三	雛子	七四	春	七四	海棠	七四
小虫花	七四	小雛子	七四	春花	七四	藤花	七四
連翹	七四	辛夷	七五	石南花	七五	花障	七五

茶指	七十五	薺	七十六	後	七十六	木取	七十六
薺叶	七十六	薺	七十六	葦	七十七	山吹	七十七
芽花	七十九	若花叶	七十九	草柱	七十九	水花生	七十九
存生	七十九	芹の花	七十九	山葵	七十九	初鰯	七十九
射鰯	七十九	鶯合	七十九	貝菜の叶	七十九	小魚引	七十九
啄子鳥	八十	蚕	八十	鳥宮入	七十九	麦節	八十
蛇	八十	蜂	八十	壬生涌	八十	夜叉拭	八十一
師影供	八十一	蓮の忌	八十一	蕨入	八十一	出代	八十一
煙塞	八十一	木地炉後	八十一	寒食	八十一	毒の家	八十二
別家	八十二	行妻	八十二	毒草	八十三	毒別	八十四
友近	八十四	友を隣	八十四	毒混影	八十四	雑歌	九十

初も二百七十四歌余

發句千二百題春の卷

小菘庵確嶺撰

槁梁々々々校

春山文樵合

春之部

元日

元日やあゆみゆく世々々々々 關更  
 元日や大樹のまゝの人々々々 白雄  
 元日や草をさぐる東山 蒼虬  
 元日や雪くハ何事々々々 一具  
 元日の人々は世々々々々 由誓  
 元日ハ何事々々々 卓池







穴鑿る木の跡をちりてちびの春 三ノコ 孔正  
 持のぬもつらけしうらうら 江戸 喜守  
 あつの子のむら 信州 鶯夫  
 嬉しきすくはれし連もちれの春 信州 芭丸  
 病色せむついなま 江戸 炉扇  
 秋とる子のぬら 信州 八朗  
 せき 信州 月桂  
 天うの春 江戸 龜國  
 柳川 江戸 ちん  
 人の心を嬉 江戸 存並  
 名 江戸 静雨

御代春

君う春

千代春 江戸 孚石  
 法代の春 江戸 斗筵  
 春 江戸 長翠  
 子代 江戸 志丈  
 秋 江戸 易足  
 あ 江戸 龜國  
 志 江戸 静雨  
 難 江戸 保吉  
 者 江戸 如石  
 手 江戸 菅丸  
 西 江戸 里雀

千代春

三の朝

日の始

惠方棚

年立

年立や禁火子通ふ松の風

保吉

春来

春の来くいつてせの夕の形

椿堂

若水

若水や九玉川并の流

白雄

初鷄

初鷄やうらつきの勤かこころ

春蟻

初鳥

初鳥や梅つきのこころ

梅室

恒九

上毛

如州

武州

江戸

上毛

如州

八四

初空

初空や向や修の山家

素檠

初日

初日や春の初日を産

啄秋

長翠

武州

如州

上毛

如州

江戸

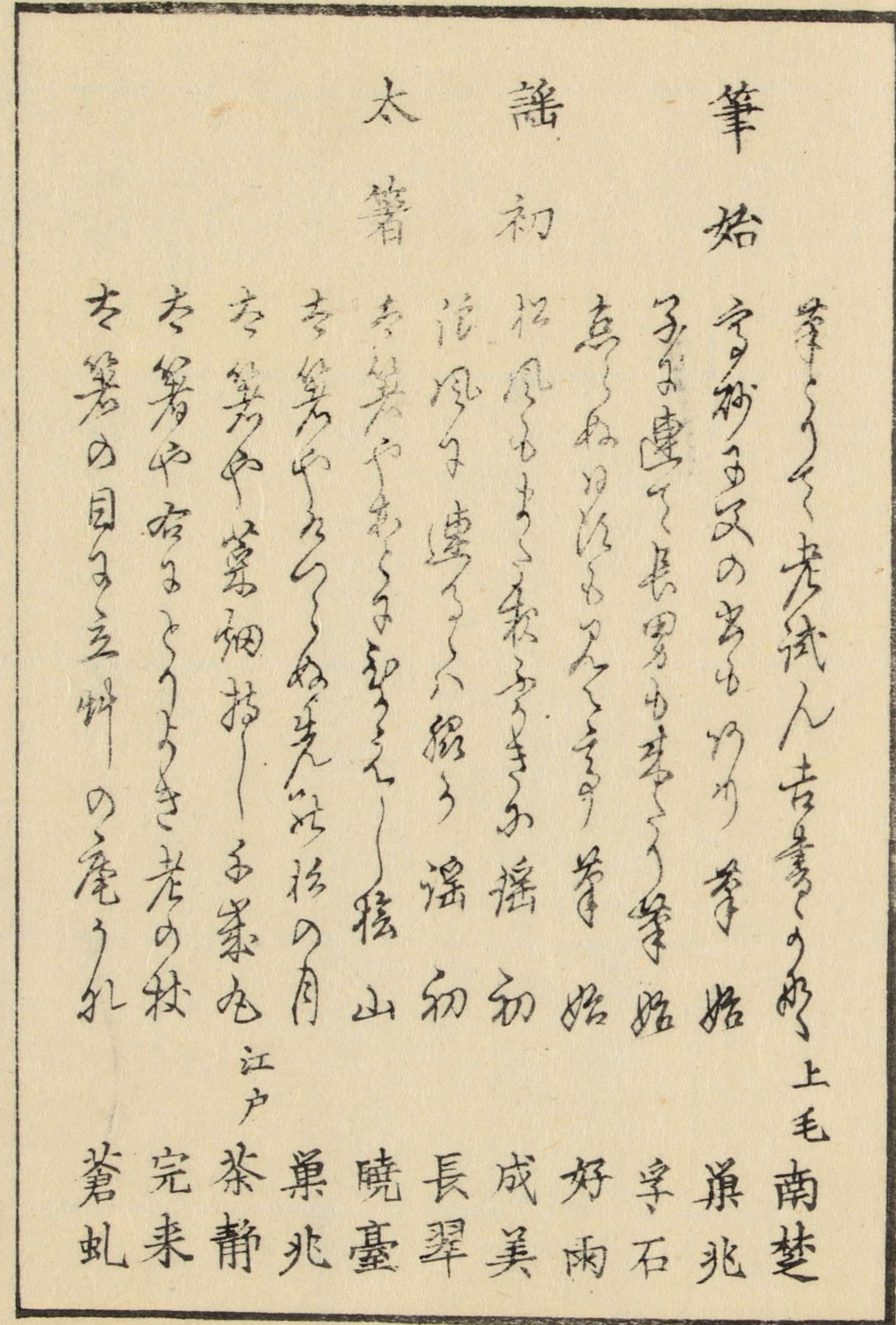
上毛

如州

上毛

日の光と影や欄の改より  
 海の上は舟のなかり初日影 江戸 蕪村  
 ともものなきみ尺の庵や初日影 蘭更  
 影をく渡り初日や宿の松 連志  
 いつたるよあらん聖山の初日 江戸 芦文  
 ますまゝの照陽庵のやうと庵の春 葛三  
 出歩けし風物新なりとも宿の夏 八朗  
 あつたりの別りもあつて庵の春 ち隆純  
 二見うゝ野の日はまゝ四方の春 秋奉  
 見あき色ハ分りあつて四方の春 長翠  
 吉書 出初の影をあつてあつてやよ 三千彦

筆始 筆くうそ老試ん吉書よりあつて 上毛 南楚  
 字の連て長男の春より筆始 字石  
 高しぬり流もあつて筆始 好雨  
 松風もあつて春の春の初 成美  
 浪風もあつて春の春の初 長翠  
 春の春もあつて春の春の初 曉臺  
 春の春もあつて春の春の初 巢北  
 春の春もあつて春の春の初 茶静 江戸  
 春の春もあつて春の春の初 完来  
 春の春もあつて春の春の初 蒼虬



御慶

藤子奉一教を降少く法華の  
旅人の旅人子ある法華の  
云ふより別子かさぬ法華の  
聖日の子おのまぬ法華の  
季礼子云ひ種出来し一季の礼  
季礼の洞縁きや梅早き  
季礼や風ゆきよる松乃色  
山里の一群つ能礼者か  
季礼のあふきよる新瑞の  
三ヶ日三ヶ日三ヶ日三ヶ日  
礼うけや子も整くは三ヶ日

三千彦  
桃儿  
八朗  
金翠  
菱丸  
上毛  
金翠  
菱丸  
上  
謙々  
長齋  
葛三

御降

三ヶ日三ヶ日三ヶ日三ヶ日  
所降子於寐とけある三ヶ日  
所降もゆめある藤子三ヶ日  
所降や搖きぬ先の妻子ゆめ  
所降や木の葉の降し一並巨徳  
所降の晴る法高あり妻の雨  
所降やえの降くも雲より  
二ヶ日も又の積んぬり三ヶ日  
いねつむや世移く雲より知ぬり  
三ヶ日も三ヶ日も三ヶ日も  
三ヶ日三ヶ日三ヶ日三ヶ日

ち掛紀  
關更  
乙二  
乘布  
有月  
長莊  
茶静  
三千彦  
碩布  
素雀  
志丈

三ヶ日積

つひよる

あつちのまねまをいひゆるる

保吉

あつちとまのまをいひゆるる

染布

山里のまをいひゆるる

月久

初曆

芥の柄も朽んぬるを初曆

三千彦

先づきし名月ニツを初曆

雨考

縁藤はく白のまをいひゆるる

志丈

妻ニのまをいひゆるる

字石

初夢

彼岸のまをいひゆるる

方舟

初夢や入る物あるを初夢

重厚

初夢や入る物あるを初夢

三平彦

宵のまをいひゆるる

字石

八ノ七

寶船

初夢や入る物あるを初夢

啄秋

年玉

不二人のまをいひゆるる

玉岱

年玉

初夢や入る物あるを初夢

斗入

去年今年

初夢や入る物あるを初夢

應々

去年今年

初夢や入る物あるを初夢

葛三

去年今年

初夢や入る物あるを初夢

乙良

門松

初夢や入る物あるを初夢

孤星

門松

初夢や入る物あるを初夢

柳玖

門松

初夢や入る物あるを初夢

鳳石

門松

初夢や入る物あるを初夢

誼布

門松

初夢や入る物あるを初夢

左来

美しき祠をひやのり松 江戸 梅木  
 多るのく時ふらふは志道とつり松 信州 文帝  
 つねに子もくもあふくは雀うね 碓月女  
 つねに梅も添くくは松 吉斎  
 家とくふゆうくあふぬの松 百丈  
 内子ある癖ゆつるしつ 篤老  
 古や聖者の気象とあふぬ松 有木  
 志め松とれをぬにせまふある 蒼虬  
 雲口もくゆる山家の松 羽州 蕉素  
 杉のまき里うくまう松 江戸 兔國  
 風の乃つくふ子木と松 長翠

松 餅 信州 菊泉  
 白も世の室の端や松 江戸 二具  
 白も積る雪の傳るまう松 武州 文玉  
 新も子もあけらひや松 上毛 真橋  
 武家町やほのく明の松 江戸 碓嶺  
 海山の是らゆくの松 上毛 旬光  
 松弁ハ世の一葉と松 菴裡 谷川  
 穂 俵 信州 巢兆  
 穂俵の端のまきめく山 信州 挹芝  
 夫ふ代の新めくまきう 信州 首丸

福藁

福藁の山まつりをん老の暮

葛三

福藁の東海名の出口うね

蕉雨

巾着

巾着のやくし扱や巾着

茅丸

巾着のやくし扱や巾着

子持丸

うら白

うら白のやくし扱や巾着

長翠

うら白のやくし扱や巾着

葛三

うら白のやくし扱や巾着

文吏

鏡餅

鏡餅のやくし扱や巾着

曉臺

鏡餅のやくし扱や巾着

玉芝

大ふく

大ふくのやくし扱や巾着

方舟

大ふくのやくし扱や巾着

尔弓

蓬菜

蓬菜の山まつりをん老の暮

蕪村

蓬菜のやくし扱や巾着

春鴻

蓬菜のやくし扱や巾着

雨塘

蓬菜のやくし扱や巾着

秋拳

蓬菜のやくし扱や巾着

葛三

蓬菜のやくし扱や巾着

一草

喰積

喰積のやくし扱や巾着

乙良

喰積のやくし扱や巾着

三千彦

屠籬

屠籬のやくし扱や巾着

護物

屠籬のやくし扱や巾着

一蕙

屠籬のやくし扱や巾着

静雨



雜煮 三ツ椀の雑煮うらまや長考あり

若くしてしるべきの意なき、雑煮あり

惠方 我宿ち七年ハ江戸をある方ハ

雪うらみ我子ある方ハありなり

朝のこころむける西をある方ハ

年男 欲るせぬ旅もあらん年男

年男むらゝ旅人子旅するなり

まを始 仕合と渡りもをいしきを始

兼出子世の業をいんきを始

旅人子をちり宿をやきを始

節着 ちやぬき居候子らん宿を始

蕪村

素直

葛三

良々

碓嶺

谷川

碓嶺

葛三

奇淵

小哉

葛松

ハノ十

娘う君

三日月を君よとて下廻り君

万歳

兼登り君の意も娘う君

万歳の徳も計をわたり

万歳や寿もゆるさね包 妙

万歳や七年も我らある年

万歳のあゝもあゝも一 靴

万歳をいんも坐る里のち移り

万歳をいんもあゝも一 怪

万歳や身の内月を金糸もいん

南楚

乙二

碓嶺

三千彦

葛三

荷乙

一桃

静雨

挹芝

二丘

曲江

鳥追

鳥追や志望のゆかり裁むし

さくら

猿曳

猿曳の務まりるや若きむら

護物

傀儡師

傀儡師の江戸の志望のふり

梅室

松の内

松の内や若きむら

椿堂

松の内や若きむら

鳳朗

碓嶺

楓江

福曳

福曳の若きむら

信州

半山

羽子

羽子の若きむら

素雀

羽子の若きむら

菊泉

破弓

破弓の若きむら

鳳朗

孝子

孝子の若きむら

静雨

谷川

可厚

議物

孚石

巢兆

被下ろしも儲くそふある状を  
手鞠つゝおのふもあはれ梅子や子鞠はく  
信州 碓月女

正月 立かゝるもくはくもまう  
江戸 木

正月 正月の縁のなまきも木  
長翠

正月の縁のなまきも木  
三千彦

正月の縁のなまきも木  
士朗

正月の縁のなまきも木  
成美  
升六  
閼更  
乙二

正月

正月の縁のなまきも木  
茶静  
正月の縁のなまきも木  
連志  
正月の縁のなまきも木  
梅窓  
正月の縁のなまきも木  
喜文守  
正月の縁のなまきも木  
江魚  
正月の縁のなまきも木  
素行  
正月の縁のなまきも木  
長翠  
正月の縁のなまきも木  
方舟  
正月の縁のなまきも木  
素雀  
正月の縁のなまきも木  
碓嶺

二つとも同じ日のあき睦月ハ  
 月丸くある程梅のむつきハ 信州 孚石  
 篠まじりしそめる寺の睦月ハ 江戸 芥翠  
 一里六梅て月さくむつきハ 信州 文耕  
 仙さすのむらたき睦月ハ 月桂  
 和りて家の出て睦月ハ 江魚  
 影の心をあねむつきハ 素行  
 影梅さるあもむ睦月ハ 上毛 菱丸  
 夜物の時あき睦月ハ 江戸 吳翠  
 足あきしの心をゆる睦月ハ 孤星  
 あき夜あきの睦月ハ 貞雄

初子日

のつる舟岬の杉よるのりせよ 白雄  
 芳らきの杉やまらるる子のみりハ 蘭更  
 弓むくつて飛あつる初子のみり 春鴻  
 暮立てはまき子のみりハ 面高き 保吉  
 氣の伝をるるな初子のみり 葛三  
 簾かきとあつる初子のみり 成美  
 先づ人狭くあつる子のみりハ 鼠月  
 とちくつるあつる初子のみりハ 上毛 雉啄  
 根曳せん候防風を初子のみり 一桃  
 田芥曳もんあつる子のみりハ 信州 鷹山  
 親の種一杉とんあつる子のみり



初若菜 若菜

七種やまふ人の味やま  
 垣城の傳はまはくくし  
 七種はまふ人の味やま  
 七種はまふ人の味やま  
 七種はまふ人の味やま  
 七種はまふ人の味やま  
 七種はまふ人の味やま  
 七種はまふ人の味やま  
 七種はまふ人の味やま  
 七種はまふ人の味やま  
 七種はまふ人の味やま

春鴻 胃女 志丈 董齋 篤老 保吉 三彦 士朗 星布 五明 梅室

家宿の足とひあつて  
 畑中より華の軒まはる  
 人の世とあつて久し  
 大勢の傳はまはくくし  
 大勢の傳はまはくくし  
 大勢の傳はまはくくし  
 大勢の傳はまはくくし  
 大勢の傳はまはくくし  
 大勢の傳はまはくくし  
 大勢の傳はまはくくし  
 大勢の傳はまはくくし

巢居 茶静 大蕪 静雨 孚石 桐居 ちね紀 春嶺 花江 易年 雨聴

信州 江戸

薺

四六形は配るはらあまわうま  
わのあめ衣流下の括ひの雪しる  
梅よりゆきをれをまきさる薺  
薺うり朝の初陽をわくうり  
わく起ん薺たまひもまうり  
薺素我子もあはれ薺異人  
娘くさふは買てやる薺  
庭よりれもあうりも薺  
田のちやまやもせはる薺  
初よりあめまきよ薺  
云々のを結してや薺

葛古  
玉芝  
蕉素  
白雄  
關更  
青羅  
雨考  
江戸 梨玉  
正十子 鼎湖  
一桃  
信州 柳玖

芥

佛座

河尻をくくをく離れ薺  
嬉しこの薺も白く薺  
小畑の芥は結るる薺  
いら文の薺梅あり梅あり  
をき程梅子のうり薺  
帰るさや芥を結ひ芥の文  
是をうりは程おさう芥の芥  
子をぬく芥もまきれ芥  
梅人をまきつめまき田芥  
芥の芽也半も梅も田面  
是あは六階ても芥うり

喜冬守  
連志  
三桂  
椿海  
阿号  
保吉  
蕪村  
静雨  
志文  
連志  
梅室

乙里 エチゴ  
 有臺 武州  
 乙良 武州  
 秋臺 武州  
 董齋  
 一桃  
 伯夫 江戸  
 春成  
 三千彦  
 馬年  
 長翠  
 五形 耕や五形さう田を娛め分  
 陰曲のむ徑自か五形くのか  
 撰まうくさるの盲くくる五形か  
 恵具 あとの方の遊山や恵具は風名を道  
 子う撰まあさるのあつは恵具は常物  
 形意の藝を考りも事ぬりのか  
 豊

福壽艸  
 薙すや日暮るや 梅の寺の表 丁毛  
 薙すよぬくともきこ梅の障りより  
 又し一層や云々あつは福壽草  
 神あつはこれあさうや福壽草  
 福壽草草二方色すも草あつは  
 人の子を離れる朝や福壽草  
 けりそくよあつは春をれ福壽草  
 削りけ 杉田の梅も仕白くり  
 小くくきふつよりけり削りけ  
 本あつ人の味をさるき白や削りけ  
 出信入の洞あつし削りのけ  
 薙六  
 志夫  
 葛三  
 柳玖  
 梅野  
 一草  
 巢兆  
 茶静  
 志丈  
 素雀



小正月

秋の白濁の夢ひてくや正月

志丈

長居の空をぬ家や少正月

二三

春の空をぬ家や少正月

春成

春の空をぬ家や少正月

菁々

春の空をぬ家や少正月

夢々女

福若

風をぬもは一筋を福のり

葛三

福佛の大きき家や少正月

祖郷

春若

松風の舞をぬもは一筋を福のり

月居

あつちの空をぬ家や少正月

ち程丸

初芝居

あつちの空をぬ家や少正月

茶程

あつちの空をぬ家や少正月

あつち女

サギテウ  
三毬打

左義長のあつちの空をぬ家や少正月

百丈

とんと

あつちの空をぬ家や少正月

巢兆

とんと

あつちの空をぬ家や少正月

碩布

あつちの空をぬ家や少正月

奥州

あつち女

あつちの空をぬ家や少正月

半山

あつちの空をぬ家や少正月

左ふ

あつちの空をぬ家や少正月

信州

英文

あつちの空をぬ家や少正月

三千彦

あつちの空をぬ家や少正月

長翠

あつちの空をぬ家や少正月

重厚

あつちの空をぬ家や少正月

茶静





氷解

春もさやほり引くもわうな

信州

一肖 梅窓

凍解

容易より霧ゆるもさよわうな

左之介

霧ゆるの門はあもあつ凍ゆる

素考

初霞

松はいつも嬉しき物を初霞

存亞

飛ゆる舟の雲をさよわう初霞

巢兆

雨風はいつの代はあつ初霞

嵐外

山は若かりしぬはいつも初霞

上毛 松兄

春霞

小山は志する人りちぬ春霞

雨考

嘆喩山の明像見ん春霞

素雀

旅衣若くして春霞

ち務兒

ハノ廿一

霞

芥とける大木のゆれや霞を

三千彦

鏡は花や霧を霞は神のつと

巢兆

雲ありや松のあつ一葉あつる

几董

巨艦出くすも同じく霞を

月居

雲をや死をこりしてうあつ人

乙二

雲よりや春あつ人の後ゆ来り

成義

雲を来りてはもゆきぬ時を

幽嘯

はの雲あつたる風の吹く後

雨塘

昔は雲や若く霞を人懐くはも

應々

雲を春の月あり人の二月霞

茅丸

霧けりし山村色は山 島 孤村  
 霧をよみんも出る浦の霧は  
 燈火のつらき霧を破る  
 二つと八つと霧も霧も破る  
 戸の只霧をさす夕の霧  
 荒原や霧の杉の日の霧  
 杉もやまき木を枯らす霧  
 梅と木の枝のよる霧  
 戸をぬき留る霧  
 霧もや霧の霧の霧  
 うすむらや人は懐せる物

信州 仁窓  
信州 享石  
信州 鼎三  
信州 林霞  
信州 庚年  
信州 尚古  
 与珍

易足  
 清女  
 芭竹  
 茶静  
 易足  
 清女  
 芭竹  
 茶静  
 易足  
 清女  
 芭竹  
 茶静  
 易足  
 清女  
 芭竹  
 茶静

易足  
 清女  
 芭竹  
 茶静  
 易足  
 清女  
 芭竹  
 茶静  
 易足  
 清女  
 芭竹  
 茶静

易足  
 清女  
 芭竹  
 茶静  
 易足  
 清女  
 芭竹  
 茶静  
 易足  
 清女  
 芭竹  
 茶静



春の日

春の日の影あつしきとよき春の影あつしき  
後浪の時うつりし春の影あつしき  
春生木の影あつしきとよき春の影あつしき  
春の影あつしきとよき春の影あつしき  
春の影あつしきとよき春の影あつしき  
春の影あつしきとよき春の影あつしき  
春の影あつしきとよき春の影あつしき  
春の影あつしきとよき春の影あつしき  
春の影あつしきとよき春の影あつしき  
春の影あつしきとよき春の影あつしき

長翠  
葛三  
蓼太  
士朗  
恒丸  
巢兆  
大梅  
桃吏  
仁窓  
一草

六ノ廿四

永日

永日松蔭ハ影も日永ハ影も日永  
日永ハ影も日永ハ影も日永  
日永ハ影も日永ハ影も日永  
日永ハ影も日永ハ影も日永  
日永ハ影も日永ハ影も日永  
日永ハ影も日永ハ影も日永  
日永ハ影も日永ハ影も日永  
日永ハ影も日永ハ影も日永  
日永ハ影も日永ハ影も日永  
日永ハ影も日永ハ影も日永

葛三  
蒼虬  
淋山  
千秋女  
菁々  
干隣  
上毛  
信州  
一朗  
首丸  
魚龍  
茶静  
蕪村

遅き日

遅き日  
遅き日  
遅き日  
遅き日  
遅き日  
遅き日  
遅き日  
遅き日  
遅き日  
遅き日





春風の初るる物りしは秋遠くあり  
 ともく人のとくま年よけり春の風  
 物忘れしる面をぬや春の風  
 物合のともき月半く春の風  
 塔の塔のうらや春の風  
 於少くも於はやくあり春の風  
 用もたうくと甘まき春の風  
 春風や春物よりの初るる  
 不三時て春風さらく戸口うれ  
 春風やお平目とれる物りあり  
 ありありと流るる春や春の風

信州

曉臺  
 三千彦  
 竹有  
 靜一  
 旬光  
 荷乙  
 ちぢぢ  
 連志  
 香吹  
 雨紅

ハノ廿六

春  
雨

梅さそそと若きは吹き春の風  
 春風を押し進て吹くぬ嵐小  
 行くふつひと吹き春の風  
 山伏のふささき春の風  
 市井のふさき春の風  
 障る世の初るる付る春の雨  
 幅立てて空の初るる春の雨  
 春雨や枯木の上を降るる  
 内庭のふさき春の雨  
 芥生さく芥向かき春の雨  
 春雨の隣りありぬ小庭

小三

葛古  
 梅木  
 若丸  
 霞羨  
 長翠  
 曉臺  
 三千彦  
 巢光  
 成美

赤の多うらむきこのの春の雨  
 春の雨や赤のうらむきの乳山  
 春の雨や赤とあつたかかき  
 眺るもの降る物と春の雨  
 夕ぐれもあつた像は春の雨  
 春の雨や舟の舟の雨くは  
 一歌うらむき春の雨  
 降る降るをうらむき春の雨  
 春の雨や舟の舟の雨くは  
 春の雨や舟の舟の雨くは  
 春の雨や舟の舟の雨くは

保吉  
 巢兆  
 月居  
 若人  
 方舟  
 吟秋  
 浅香女  
 芦文  
 東條  
 蓬國  
 董翁

畑 打

畑の打や春の雨くは  
 畑の打や春の雨くは  
 畑の打や春の雨くは  
 畑の打や春の雨くは

田 打

田の打や春の雨くは  
 田の打や春の雨くは  
 田の打や春の雨くは  
 田の打や春の雨くは

蕪村  
 乙二  
 淇竹  
 梅野  
 葛三  
 孤村  
 楓江  
 吟秋  
 さふ不  
 應々  
 一蕙

田

田の打や春の雨くは

一蕙

木の芽

相の芽の生一此の秋不似  
砂子とる松の芽もあはる板うる  
橋はとらえんを本の芽の生ぬ  
折らぬとる跡はまを本の芽は  
甲乙のあはるを本の芽は  
世もいとふんのあはる本の芽 時  
汐陽とる風をうる本の芽は  
子の最端の芽はゆきまを  
あはるの地や本の芽もその最  
思ふそくまの本はより本を  
二つを宿のあはるを 州 の 最

三千彦  
成美  
ちげ丸  
梨玉  
玉芝  
錦水女  
義博  
葛三  
道澄  
かこ女  
良々

信州

下萌

初草

若艸

下萌や初草の芽の生一此の秋不似  
下萌や初草の芽の生一此の秋不似  
初草や若艸の芽の生一此の秋不似  
初草や若艸の芽の生一此の秋不似  
若艸や初草の芽の生一此の秋不似  
若艸や初草の芽の生一此の秋不似  
若艸や初草の芽の生一此の秋不似  
若艸や初草の芽の生一此の秋不似  
若艸や初草の芽の生一此の秋不似  
若艸や初草の芽の生一此の秋不似

雨紅女  
董齋  
三千彦  
寥松  
士朗  
ちげ丸  
香吹  
末仙  
桐居  
若



臺梅の心を嘆息とて、春の甲子  
 梅は月夜に花を咲かせ、花径をよぎ  
 梅は只、眩子の心も、あはれ、あはれ  
 若くも、いんまを、たのむ、梅  
 子、心、お、あ、る、も、梅、の、心  
 老と、老、の、中、終、の、梅、咲、ひ、ら、く  
 梅、折、ま、さ、る、の、鼻、先、毎、く、ら、く  
 梅、の、心、老、び、る、心、は、あ、ら、う、ら、り  
 若、く、の、心、の、ま、ら、う、ら、梅、の、心  
 お、け、あ、く、若、く、入、り、の、や、梅、の、心  
 一、人、の、起、務、あ、ら、う、梅、の、心

三平彦  
 春鴻  
 羅城  
 士朗  
 乙二

立、下、う、く、人、影、や、う、ら、ん、梅、の、心  
 守、武、う、え、り、も、こ、の、う、め、の、心  
 ほ、文、彦、も、梅、を、れ、い、を、梅、の、心  
 う、そ、の、あ、い、を、あ、ら、う、ら、梅、の、心  
 う、め、の、心、も、あ、ら、う、ら、梅、の、心  
 お、き、く、ち、る、二、月、の、梅、を、梅、の、心  
 四、六、朝、の、よ、き、を、梅、の、心  
 梅、の、心、や、梅、の、心、梅、の、心  
 こ、の、心、の、心、も、万、代、や、梅、の、心  
 山、の、あ、い、は、古、を、梅、の、心  
 春、く、や、遠、く、の、梅、の、心

出雲

可都里  
 卧鵬  
 蒼虬  
 申齋  
 牛心  
 葛三  
 病杖  
 松兄  
 可都里  
 雨塘

巴陵種大や多勢もまた梅の志  
 笑々々四ツ舌の梅のり使う如  
 異はまらあう我子折くまは梅の志  
 西風の吹也梅の志登りの如  
 梅々まや一夜雪あき生駒山  
 つつあな二ツ笑々々梅一途しき  
 わくくしは笑うくまは梅の志  
 一曇りくく梅まあめ梅のり  
 梅々々や梅のり曇りくめは梅の志  
 梅々々や梅のり曇りくめは梅の志  
 梅のり曇りくめは梅の志

巴陵  
 一蕙  
 卓池  
 斗筵  
 旬光  
 久城  
 素雀  
 春嶺  
 ちげり  
 連志

八ノ三十一

まんずるふあらし梅の月おれ  
 存分おれおれし梅の志  
 世あらしも梅のりおれ梅の志  
 二つうら梅のりおれ梅の志  
 二枝く梅のりおれ梅の志  
 二つうら梅のりおれ梅の志  
 二つうら梅のりおれ梅の志  
 二つうら梅のりおれ梅の志  
 二つうら梅のりおれ梅の志  
 二つうら梅のりおれ梅の志

梅温尼  
 上井 糸友  
 庄内 貞雄  
 小哉  
 善々  
 喜守  
 信州 三井  
 孔正  
 信州 左梁  
 きき女

梅子月より望つるにやまきある  
 去る甲子のまき世とあるに梅の  
 昔ききよやや新くは梅の  
 山里ハ新くは梅の白むう形  
 明く何る梅は月とに梅屋ハ  
 二を見ても望みのまきや梅の  
 年とたつては久しや梅の  
 此候も望つる一梅梅は月  
 梅はてまき君の初を 望つる  
 幸はとく世後のやとく庭の梅  
 はなまき梅の老木ハあうりあり

葛古  
 省古  
 凍梨  
 市山  
 五栗  
 日人  
 柳玖  
 叢鶯  
 長莊  
 芦文  
 椿海

ハノ三十三

五三君去れ月より梅ハ  
 去るまきを望つ梅は川の上  
 梅候や梅の望つる川の上  
 梅候を望つるは川の上  
 うり望つる山より望つる梅  
 梅候は望つるは川の上  
 去る梅は望つるは川の上  
 望つる梅は望つるは川の上  
 梅の月山から望つるは川の上  
 望つる梅は望つるは川の上  
 望つる梅は望つるは川の上

上サ 糸友  
 小ク 一臯  
 十才 意水  
 六才 龍玉  
 富貴  
 半山  
 上毛 扇石  
 江戸 ちうき  
 詠帰  
 上毛 椿洲  
 友我

白梅

古くはのちあはれは梅は  
多梅や小葉くくはの紅はくく  
多梅やあまのりあはれにくは  
多梅は初瓶落の西りく  
多梅やつらの梅はの日のかけり  
多梅の落はあはれん  
多梅や思日障日の中一ニ  
多梅の俳くくはあはれり  
多梅やあはれをくくはあはれ  
多梅はあはれ梅りぬ山や  
多梅や志望の梅の荒はくく

長翠  
巢兆  
升六  
春嶺  
三千彦  
蕪村  
曉臺  
成美  
鹿太  
一蕙  
梅守

紅梅

柳

あ十年柳は是は経ぬまは  
人の柳くくはあはれくくは  
遠のくくはあはれくくは  
あはれくくはあはれくくは  
柳くくはあはれくくは  
火焼くくは油くくは柳くくは  
旅人のあはれくくは柳くくは  
柳くくはあはれくくは柳くくは  
あはれくくはあはれくくは柳くくは  
あはれくくはあはれくくは柳くくは  
あはれくくはあはれくくは柳くくは  
あはれくくはあはれくくは柳くくは

長翠  
三千彦  
曉臺  
樗良  
巢兆  
成美  
希言



事の晴し柳も色去返う春  
眠きるや柳色返は又柳  
近まきり春まきるの柳  
春場をたんとその時の柳の春  
春の山の上より柳の春  
春のまきる春のつと柳の  
春の柳のまきる春の柳の  
春の干し柳の乾く柳の  
春のまきる柳のまきる柳の  
春のまきる柳のまきる柳の  
春のまきる柳のまきる柳の

冥々  
可都里  
蒼虬  
嵐外  
大梅  
静雨  
志丈  
連志  
里月安  
茶静  
古静

少流を裁てもおさう柳の春  
春のまきる柳のまきる柳の  
年の影の長くかき柳の  
年の影の長くかき柳の  
思ひかき柳のまきる柳の  
春のまきる柳のまきる柳の  
いつのまじく柳のまきる柳の  
春のまきる柳のまきる柳の  
春のまきる柳のまきる柳の  
春のまきる柳のまきる柳の  
春のまきる柳のまきる柳の

春嶺  
千秋女  
東臯  
古翠  
香吹  
啄秋  
與人  
麓水  
乙貞  
聞鳥

武州

奥州

青柳

曉を暮りたりたる柳の春  
流さるも行ひけり柳の  
春の柳の春の柳の  
柳より春の柳の  
宿るも春の柳の  
春の柳の春の柳の  
春の柳の春の柳の  
春の柳の春の柳の  
春の柳の春の柳の

孔正  
嘯月  
梨玉  
五栗  
庚午  
梅木  
友我  
五栗  
下毛  
嵐崎  
鳥酔

芽柳

糸柳  
接木  
接穂

春柳の山路の春の柳の  
春柳の山路の春の柳の  
春柳の山路の春の柳の  
春柳の山路の春の柳の  
春柳の山路の春の柳の  
春柳の山路の春の柳の  
春柳の山路の春の柳の  
春柳の山路の春の柳の  
春柳の山路の春の柳の  
春柳の山路の春の柳の

曉臺  
長翠  
檜洲  
孤村  
泊舟  
梨玉  
鳥酔  
蒼虬  
長翠  
成美  
乙二

けりてあまの暮もあはれぬ挿種は  
 地恵の種まきしるる柳 二十  
 挿まきしは中より年柳の如  
 姪しとの心見まゐるさし木は  
 若くをさすとも意やしし柳  
 十のふも雨のからぬ挿木は  
 為まきしし日敷のさゆ挿木は  
 宮中の花園して有挿木は  
 松のむ柳のむはまきし木は  
 赤松や栂を付くる松あり  
 名う咲あはれぬ松のむ

碓嶺  
 与一珎  
 葛古  
 如春  
 ささる  
 椿海  
 庚午  
 玉岱  
 白雄  
 保吉  
 升六

ハノ三十六

松の花

旅のふりき尾ししや松のむ  
 けりてあまの暮もあはれぬ挿種は  
 地恵の種まきしるる柳  
 挿まきしは中より年柳の如  
 姪しとの心見まゐるさし木は  
 若くをさすとも意やしし柳  
 十のふも雨のからぬ挿木は  
 為まきしし日敷のさゆ挿木は  
 宮中の花園して有挿木は  
 松のむ柳のむはまきし木は  
 赤松や栂を付くる松あり  
 名う咲あはれぬ松のむ

碩齋  
 静雨  
 碓嶺  
 志丈  
 乙良  
 茶徑  
 士朗  
 月居  
 三平彦  
 一具  
 葛三

椿

若さる



三葉芹

三葉の物の名もまじりて三葉芹  
蓬生の名もいふれり

信州

長翠

保吉

月邦

さくら

菊萌る

あふりのこころなるまや菊のゆる  
歩きの種志のうらみ菊のゆる

信州

其玉

静一

上毛

菊苗

菊苗や空吹風の地まいつる  
あふ先子待人まじりて菊の苗

猫の意

猫の意あふ秋後まじりて意なる  
猫の意あふ秋後まじりて意なる  
雨初るまじりて意なる  
隠家やまじりて意なる  
意なるまじりて意なる

白雄

樗堂

鳳朗

積翠

好雨

小鮎

小鮎や悲せぬ猫もあまじり  
あふりふりのまじりてやうと猫の意  
おろけは浪の底行か鮎  
鮎やんまじりてあまじりて  
あふ鮎や浪のまじりてあまじりて

信州

茶静

確嶺

孟光

好雨

凉湖

壽堂

長翠

葛三

曉臺

大江丸

士朗

白魚

白魚や止るまじりてあまじりて  
白魚の骨身をむけぬ  
白魚の骨身をむけぬ  
白魚の骨身をむけぬ  
白魚の骨身をむけぬ

鶯

名色の鳥をながしゆく 鶯のうた  
百様の鳥を急ぎゆく 鶯のうた  
ふれぬや水も放つる 鶯のうた  
鶯ももきこらぬ 鶯のうた  
鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた  
鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた  
鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた  
鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた

春鴻 梅室 友我 長翠  
三平彦 鶯三 蘇村 晴臺 儿董 保吉

鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた  
鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた  
鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた  
鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた  
鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた  
鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた  
鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた  
鶯のうた 鶯のうた 鶯のうた

春鴻 士朗 樗堂 乙二 可都里  
巢兆 蒼虬 扇杖 寫老

芳名をよちのともつねぬ島をよそ  
 芳名の海連の懐をよる林の  
 芳名や川幅よりいふを道に  
 芳名の春をよるの初形は  
 咲かす春の芳名の野山うれ  
 芳名をよる林むもあはれをよる  
 埋火や芳名をよるの春をよる  
 芳名や春の芳名の野山うれ  
 芳名や春の芳名の野山うれ  
 芳名や春の芳名の野山うれ  
 芳名や春の芳名の野山うれ

成義 梅室 芳国 旬光 孤村 鉄夫 連志 梨玉 古翠 梅窓

芳名をよちのともつねぬ島をよそ  
 芳名の海連の懐をよる林の  
 芳名や川幅よりいふを道に  
 芳名の春をよるの初形は  
 咲かす春の芳名の野山うれ  
 芳名をよる林むもあはれをよる  
 埋火や芳名をよるの春をよる  
 芳名や春の芳名の野山うれ  
 芳名や春の芳名の野山うれ  
 芳名や春の芳名の野山うれ  
 芳名や春の芳名の野山うれ

信州 廉志 白堂 扇石 芦文 麗水 碓鳥 ちうき 易足 宇南 仁窓

雲雀

雲雀啼や洗言の音け我を引

長翠

覺

うそ啼やあまの極み出る寺の臥  
うそ啼やこあられ名もた留難

兩紅女

洞響を流流所しう雀うあ

長翠

雀のやん先のを人の祈

千春

黄をよの浦山をううは初まふ

首丸

雀のうけこは庵のましうら

春雪

森とありそ雀のうん歌の四

素行

黄をよの夢のうこあり歌の月

孔正

雀の先まわりうう雀のの那

鼎三

雀や梁ととある眼、うの責

うの首は風の吹中う啼かきう  
川舟や雲雀啼くし右左  
山陰やうをうあれハ啼く雀  
散うめのけううAて啼く雀  
山と影るこころあううう  
蘇子雀格別あまを歌はは  
おろし事う首よかろう  
茶静の稀よのうう雀  
うのううあまののう雀  
聖もあまやう不雀の揚子虎  
大空く雀をのうう雀

下毛  
龜遊 茶静 志丈 鳳朗 梅室 應々 千影 乙二 三千彦 蘭更





海苔とむや月ハ統マヨル 信州 義博

縣 台 更級の月ヨ志アセ 縣 石 蓼太

御 忌 汝志の種ヲカノモヤぬヨウリ 長翠

汝志の種ヲカノモヤ 荻の種ヲカノモヤ 白雄

荻ノ種ヲカノモヤ 瑞馬

二月 ちノ種ヲカノモヤ 長翠

鴨ノ種ヲカノモヤ 可都里

折ノ種ヲカノモヤ 二千国

素雀

ハノ四十三

志丈

孚石

連志

霞羨

孤星

芦子

梨玉

茶静

可厚

貞雄

廉志



釈奠 涅槃

初年や梅見ぬ年の梅をて見ん  
初年や江戸もわかきと回をを  
初年やおもひしころのく過り  
初年や種物賣り市のくは  
飯食く勢知そくれ釈 奠  
面赤いさ見ゆる鳥や涅槃像  
あくの内家ましくおそん像  
おそん像や梅樹をてまこ様さ  
法華子ふはあしり 涅槃像  
廣くまこと何はまはおそん像  
孫そん像や羽のあしり遊記

白雄  
芦ふ  
孚石  
雨紅女  
二柳  
鳥醉  
春鴻  
星布  
重厚  
乙二  
日人

佛の別

西行忌 彼岸

初ま佛も初年もあるおそん像  
涅槃像もや只つらうき世に生れ  
おそん像のそくも南るやおそん像  
おそん像や南るもあき涅槃のそ  
去るも南るも南るおのわのれを  
糸束の白も佛の日の遊の形  
あしり一仏も実生しくあしり  
これ程もあしりの死おのわの形  
おそん像の南るも西行忌  
あしりもあしりも西行忌  
あしりもあしりも西行忌  
あしりもあしりも西行忌

茶静  
雨紅女  
碓嶺  
白雄  
長翠  
士朗  
鷗里  
碓嶺  
白雄

阿州

土入る者茶園や積岸 祇  
 瘦土の土も赤る者あり びん色  
 山里より以積のある積岸  
 素陽好より出せし積岸  
 後先より赤い日のある積岸  
 さむく赤土の出せし積岸  
 おさし積岸の朝日熱く  
 のつらき積岸の朝日熱く  
 水口祭 芝 青 水口祭 色 青  
 ありきとてありきある山田  
 積塔 積塔や延くぬり力 漸き

春鴻 三平彦 蒼虬 茶静 露園 芥翠 一葉 粟氷 桑布 素雀 如毛

種卸 二日灸

積塔をたふし行方あり 表の厚  
 二日灸 戸口 ぬき 二日灸  
 前もせぬ物の二日灸や二日灸  
 二日灸 少納の積塔きより 虎  
 よう 舟 足 命 ちり 二日灸  
 多し ちり 命 ちり 二日灸  
 二日灸 ちり 命 ちり 二日灸  
 表 終 ちり 命 ちり 二日灸  
 附れ ちり 命 ちり 二日灸  
 照 終 ちり 命 ちり 二日灸  
 葉 代 や ちり 命 ちり 二日灸

可厚 桑布 素雀 茶静 連志 百丈 叢 蕪村 有木 可月 碓嶺

苗代

粒々皆辛苦

苗代の秋水乾るる我の身も  
玉苗やとらふ人の様嘆よらうと  
苗代もつるものさうしよお朗  
稲穂山よ峰年の苗代よ秋時分  
苗代や日く照くまハ低るる  
苗代よこまあまぬや田子の浦  
一ゆききの日並まぬや苗代田  
宿くぬ云ふま来くく苗代田  
とれ月よとれ日のさうと苗代田  
盗まらるる苗代も株くく苗代の空

春の空

三彦  
蕪村  
葛三  
巢兆  
荷乙  
斗米  
菁々  
霞裳  
玉岱  
剽更

四十七

初 虹

春の月

少きや梅さくさくさく春の空  
去年と今年見し月あう春の空  
春の空志望もむくく都  
初虹や志くさくさく隣の子  
初虹や園近く来くま春の空  
春の月船の夕飯さうり  
春の月春の月春の月流れく  
春の月春の月春の月春の月  
春の月春の月春の月春の月  
春の月春の月春の月春の月  
乙の子の生れをさうく春の月

成美  
孤星  
来成  
茶静  
董斎  
長翠  
春鴻  
月居  
乙二

春の月あはれをよめるかあつちま  
 十の夜先なる人より春の月  
 跡とぬぬあつちまの月  
 初夜のみやしき春の月  
 夏よりぬき裁るや春の月  
 庭の上か二階や春の月  
 夜屋のいさや影さく春の月  
 函あつちま家あつちまの月  
 四の夜とつて流るや春の月  
 春の月いま往く船を啼ひし  
 松のあつちま流るや春の月

三彦  
 寥松  
 米彦  
 蒼虬  
 荷乙  
 茶静  
 孤村  
 静雨  
 ちね  
 梅守

田や畑もあつちまの月  
 春の月あつちまの月  
 川一ツ裁るや春の月  
 春も屋もあつちまの月  
 春もあつちまの月  
 春の月あつちまの月  
 春の月あつちまの月  
 春の月あつちまの月  
 春の月あつちまの月  
 春の月あつちまの月  
 春の月あつちまの月  
 春の月あつちまの月

江戸  
 霞羨  
 孤濁  
 三桂  
 市山  
 嘯月  
 梨玉  
 春女  
 壺半  
 文玉  
 苞竹  
 鳳石





朧夜

ふらふらと秋の出まきさうり月影  
秋萩や赤や白や黒や  
晨の明や秋をささるる山  
人うらやうと秋をささるる浦の雨  
秋萩の古くもあゝぬ浮世  
秋の萩や新萩をささるるの侍  
秋の萩は短き、あひの明をささるる  
秋の萩の月や灯は影のま  
秋の萩やほのくさるる人の血  
秋の萩はささるるのまきさるるをささるる

信州

一耕  
儿董  
長翠  
成美  
長翠  
青蘿  
葛三  
士朗

ハノ五十

春の夜

春の萩やほのくさるるの侍  
春の萩やほのくさるるの侍  
春の萩は短き、あひの明をささるる  
春の萩の月や灯は影のま  
春の萩やほのくさるる人の血  
春の萩はささるるのまきさるるをささるる  
春の萩やほのくさるるの侍  
春の萩やほのくさるるの侍  
春の萩は短き、あひの明をささるる  
春の萩の月や灯は影のま  
春の萩やほのくさるる人の血  
春の萩はささるるのまきさるるをささるる

卧鵬  
斗入  
成美  
碩布  
蒼虬  
花光女  
泊舟  
尚古  
桜園  
重厚

春の宵

春の宵はささるるのまきさるるをささるる

エナニ

巾

箒の毛のしるしをまつて雲のま  
に中をえんそ物にかもたまふ  
風巾の糸人のころろはつり  
巾の中をえんそ物にかもたまふ

おろしきふあふぬふふふふ

おろしきふあふぬふふふふ  
おろしきふあふぬふふふふ  
おろしきふあふぬふふふふ  
おろしきふあふぬふふふふ  
おろしきふあふぬふふふふ  
おろしきふあふぬふふふふ  
おろしきふあふぬふふふふ  
おろしきふあふぬふふふふ

楓江  
白雄  
長翠  
士朗

乙二  
蒼虬  
梅室  
素雀  
如春  
静雨

五加木

五加木垣のまの能きも  
たつて五加木垣のまの能きも

儿董

桜の芽

桜の芽やお家清き人の  
あふの芽やお家清き人の

扇雪

獨活

獨活のまや岨より結ま  
うけのまの鼻より結ま

以吉

菜の花

菜の花やお月りあふ  
菜の花やお月りあふ  
菜の花やお月りあふ  
菜の花やお月りあふ  
菜の花やお月りあふ  
菜の花やお月りあふ  
菜の花やお月りあふ  
菜の花やお月りあふ

佳風

を女

蕪村

長翠

成美



約脊

とあれたる草の傍にありて草の宿  
不敷やよき火あきり家六ツ  
子敷や雨の福ゆる芝の井  
山人りまゝいふねとのふ敷うしな  
孝く侍一山のりふ敷のりれ  
人のまよそくしり子の五敷の  
山の名をくまのりをくしりひり  
く少敷く空り喜子まゝ敷のり  
何とあき持ては泣きまゝ敷のり  
氣おろれのまゝ約敷くしりひり  
約脊りやあまうに伸くまゝ

以吉  
巢兆  
里月女  
葛三  
茶静  
静雨  
呉翠  
成績  
鳳石  
碓嶺  
志丈

八十四三

蒲公英

物終りやまよあつ日もつ子の巾  
ふん物りのあまうむきまゝ物終  
蒲公英子能よりよの海りり  
ふん物りや堂のまきもあつる  
蒲公英や中敷のりくまの時ん  
ふん物りやわきまゝぬまの有ま  
たん物りのあまかえらやまの葉  
砂川や吹くまゝあゝの角  
まよあまゝ角組や芦の角  
沿尾ハ行もあまゝあゝの角  
芦の角持りやうまゝあゝ

董斎  
長翠  
三千彦  
有臺  
信州  
布川  
吉斎  
英丈  
長翠  
雨塘  
護物  
有木

芦の角

武州

川帶

芦の芽

あいの角ちのきとくく伸るは

成美

芦錐

あいの芽や若くうかか灯のうら

碓嶺

葎子

あいの錐よりけりかき水の流れあり

長翠

菰萌

あいの山の子と他や葎子よりけり

志文

土筆

あいの土筆の十とそと土筆

三平彦

菰

あいの菰の穂も往くと菰萌るふ

白雄

土筆

あいの土筆の穂も往くと菰萌るふ

乙二

菰

あいの菰の穂も往くと菰萌るふ

大梅

ハノ五十四

素雀

雛草

あいの雛草の穂も往くと菰萌るふ

廉志

杉菜

あいの杉菜の穂も往くと菰萌るふ

志丈

信州

巢兆

馬酔木

あいの馬酔木の穂も往くと菰萌るふ

思月

焼野

あいの焼野の穂も往くと菰萌るふ

可厚

葛三

里川

江戸

不仙

山 燒

おを焼けはあとのあつてはる煙は  
おを焼やむ候ふらあつてはる  
かこつての人折あつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼

東臯  
あつて女  
三千彦  
露谷  
長莊  
素雀  
茅丸  
義博  
長翠

畑 燒

芝 燒

おを焼やむ候ふらあつてはる  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼

ハ、五、五

乙 鳥

おを焼やむ候ふらあつてはる煙は  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼  
あつてもあつてあつて山を焼

蕪村  
樗良  
長翠  
成美  
霞月女  
椿海  
百樗  
白堂  
首丸



雲のてしあひあしるも海をさす  
 行てしるせう海をんけしう雲  
 ちまこ程の海をよてのさうれけ  
 けのさうかろるてのさうれ  
 海をてしちやまきあう眼をうりる  
 隣も海行さてのさうれのを  
 人のさうし何あう海をまのて  
 けひよあひるさうさうて海を  
 つゝあうの秋をいさうり海をて  
 雀子ちの母のあり鳥希は鳴きあめ  
 雀子やあがのけしるの浅芽原

葛三  
 巢兆  
 碓嶺  
 才發  
 梅間  
 梅野  
 古翠  
 乙員  
 秋臺  
 士朗  
 乙二

引鴨

雀子をさすのさうさうの就  
 雀子やあうり付さうさう鳴  
 雀子さうさうの海をぬまきや雀の子  
 さうさうのてしを連歩り雀子  
 引さうさうの海をさうさうの鴨  
 鴨引やさうさうの山のとて  
 小田の海をさうさうの鴨  
 雀のあやまのあやまの川  
 雀のあやまのあやまの川  
 さうさうの海をさうさうの川  
 海をさうさうの海をさうさうの交

如毛  
 春嶺  
 友我  
 栄李  
 三千彦  
 乙二  
 三千彦  
 春嶺  
 三千彦

小鳥引

鳥交





墓

田螺

初蝶

蝶

墓この世の事を哀れあはれ  
 心を鳴りや移るを初るはひ炭  
 暮吟や末の二月まて消ぬ  
 唐屏や水志つむおを鳴田螺  
 畦一ツ城さ修世をへる田螺  
 遠ふようもこけるふいまに田螺  
 初蝶のちびくも物よきれらる  
 きの蝶の尻角ふきくもゆる  
 初蝶やゆきと雲戸の雪の影  
 程とらんこの手のあはれは蝶  
 蝶舞や扇柄の和をを掃りけ

葛三  
 護物  
 手抄  
 長翠  
 護物  
 孤村  
 白雄  
 長翠  
 貞雄  
 三平彦  
 葛三

八五十九

蝶の舞あつるの舞もあつる  
 細うりの舞揺るあや浦の蝶  
 函玉あつるあつる行け飛蝶  
 ともかたはあつるあつる  
 一ツ舞れあつるあつる  
 蝶舞や和を舞るのこの舞は  
 蝶舞や扇外とせぬ志賀の霜  
 志賀くくく初るあつる  
 手抄よゆけるあつる  
 蝶のあつる道のあつる  
 舞の蝶のあつるは初るあつる

巢兆  
 長翠  
 蓼太  
 月居  
 茶静  
 清湖  
 一具  
 杆白  
 芭竹  
 古翠











世をののちうさるる月夜  
 ちうりやんまを報せし藤屋より  
 暁やあめ情乃人子身あこふ  
 りつ去回んあいの水くむゆ家  
 やあいの舞をさしゆさるるあいのを  
 ちよあうさるるあいのを  
 春の向あははまのそと情を免  
 ああめをやあいの情をのめあ  
 こるるあいのそと物ほさあのを  
 ちあひまのあいのあひ  
 ちうさるる川上をさるるあひ

長翠  
 三千彦  
 葛三  
 春鴻  
 暁臺  
 重厚

ハノ六十五

形ある浮きをうきりー番中  
 ちうさるる木の根のそと山崎  
 画のそとあいのそとあいのそと  
 ああめあいのそとあいのそと  
 ちあひりーあひ見よ 月と  
 ちあひをさるるあひ行ゆせあひと  
 ちあひをさるるあひあひ七  
 ちあひをさるるあひあひあひ  
 ちあひをさるるあひあひあひ  
 ちあひをさるるあひあひあひ  
 ちあひをさるるあひあひあひ

星布  
 希言  
 完来  
 青蘿  
 羅城  
 月居  
 岳輅  
 可丸  
 巢兆  
 申齋  
 多代女



かろそんは儂も若きもこの中  
修もくや錦香の上のむ最  
小一舟のりんとのそや花の香  
花とらんそむをさうらの夕  
花咲やそ経くの朝のそ  
花も凡らちこそぬ白雲り  
咲のゆきまうまぬむの室さ  
花のこ白雲も欲のつりの那  
むのそを若くそむの月夜  
む七りむらわの雨の降き  
若るむむやゆ松のむ八良の若

多代女  
斗筲  
茶静  
春嶺  
ちぢぢ  
壺半  
池明  
吉齋  
月邦  
文阿

ハク六十六

あつきの香の情や身は清りる  
花もくやそまもむの後のり  
我くつ眺もそまのれ山のり  
若るむむや幾もまもを侍る  
若るむむや幾もまもを侍る  
あま刀く八重もあへーむの香  
聖只もむたのハ若もあむむの中  
あの中人の木もむハあうりそ  
まありそむもまむの梅のれ  
あ〜〜あ〜むも若くそむの香  
そにおれぬそあしけり人の色

信州  
五山  
鳳石  
吟秋  
茶静  
一澄  
麓水  
積翠  
櫻囿  
易足  
孤星  
祖郷



花見

春のしそあふ流れん花の香  
澹くの影ふかきうらむじん  
うめく子やあはれの属少袖  
ほまゝあはれはらふつをひん  
花の香あまぬうらむを初はら  
そがぬ垣の結りやあはれの香  
あはれとらんあはれも年初様  
あはれく出るも淋くもう様  
あはれお初めらうけもう様  
あはれあはれかきけあや初様  
老を待一筋及るは初様

傾西  
葛三  
巴陵  
芦文  
乙二  
静雨  
儿董  
三平彦  
保吉  
葛三

初桜

うらめしき心くさし初桜  
あつさうらむ心あまきあはれ  
初桜月あまうらむ出るのあ  
山道き産まゆれは初桜  
あはれは初めは初桜  
あはれは初めは初桜  
あはれは初めは初桜  
あはれは初めは初桜  
あはれは初めは初桜  
あはれは初めは初桜  
あはれは初めは初桜  
あはれは初めは初桜  
あはれは初めは初桜  
あはれは初めは初桜

葛三  
申斎  
五明  
士朗  
素檠  
梅室  
香吹  
小哉  
孤星  
花雪

櫻

上野

春と夏のおおりのあまふ初桜  
おと花とともともあまふ初桜  
らちちけけ我はあまふ初桜  
玉皇上野の桜吹雪は  
さうさうさうさうさうさう  
吹雪は桜吹雪は  
七ももももももももももも  
家の子の桜吹雪は  
桜吹雪は  
あまふ初桜は  
あまふ初桜は

春嶺 白雄 几董 春鴻 長翠 三平彦 葛三 櫻良 祖郷 乙二

これお身のまゝありて山 櫻  
はくくくくくく居れはるる櫻  
山の櫻さうさうさうさうさう  
出歩りはるの櫻はあまふ初  
春と夏のおおりのあまふ初桜  
おと花とともともあまふ初桜  
らちちけけ我はあまふ初桜  
玉皇上野の桜吹雪は  
さうさうさうさうさうさう  
吹雪は桜吹雪は  
七ももももももももももも  
家の子の桜吹雪は  
桜吹雪は  
あまふ初桜は  
あまふ初桜は

士朗 可都里 成美 素檠 巢兆 申齋 月居

あつゝまらぬくまゝ ありて様  
 木の節をきかぬれりたる様  
 嘆息の月をよめるまゝぬ様  
 ちりけりてお氣持たる様  
 菊のつた聖りのりのめりたる様  
 雪の國ハくく押は嘆様  
 池上の様嘆くくり書め出来  
 友編しそふ和明る様  
 雲の舞をよる物もよめる  
 蓮の舞のつら水も様  
 数るるものも物のまゝき様

椿堂  
 桂吾  
 梅室  
 鳳朗  
 護物  
 一具  
 露園  
 瑞雄  
 荷乙  
 孤村

八十七

ねろ拵て夢ぬ山のさくら  
 花の様まゝ海をよめる  
 ぬのり方へくく様  
 味やうま川原さけり様  
 聖をよめる見ゆりて様  
 物云のぬ様まゝも様  
 面のり雨まゝも様  
 をよめる事りて様  
 芥うけるおまゝも様  
 様嘆く庭をよめる様  
 明のり初りて様

孤村  
 春嶺  
 茶静  
 一笑  
 涼湖  
 謙々  
 月久  
 淇竹  
 雪明  
 完明

上毛

山常州 五行  
 尚古  
 茶徑  
 貞雄  
 以吉  
 孔正  
 江魚  
 文耕  
 花雪  
 五粟

ハノ七十一

櫻狩

山 櫻

曲江  
 鳳石  
 以吉  
 士朗  
 樗堂  
 少汝  
 蒼虬  
 井眉  
 卓池  
 一具  
 西阜

重々山々見定め垂花山 榎 下毛 里窟  
 山榎見ゆる連つてくる春の夜 信州 其逸  
 暮らるるをみる飲んてく 山榎 雨紅  
 垣せぬ大庭のちひるくやま榎 尚古  
 伝ふまゝ見えんや 小哉  
 門遠くひまるとを眺 山榎 松月  
 分入のまゝの葉もゆりてま榎 鳳石  
 八重榎を降るゆりてゆりて 辛彦  
 夕のくく候志のまゝぬ 暁臺  
 春のくくは榎もまゝをわく榎 葛三

八重榎  
遅榎

知りかゝるもあめんやおそくく  
 一遅榎おのの初おのれあり  
 春の月と痛の本のあらの遅榎 旧國  
 忘れよふ候くくをまゝか 確嶺  
 おちり 一遅榎をまゝか 静雨  
 枝村の南カ爾遅く二遅くく 与環  
 心初と深き山あり 史弄  
 一遅榎をまゝか 聞鳥  
 一遅榎をまゝか 一翠  
 候あつてまゝか 雪明  
 好雨

瀧榎

姥 桜  
児 桜  
家 桜  
庭 桜  
桜 鯛

おちくしーちの類の日を辰橋  
おのる色いづり子よりあ姥様  
秋のうらみんあまのまゝあや姥様  
まゝいもあまのしぢかたて児様  
枝うりりて鳴るや児様  
おの世や家よあうそ家様  
雨風のうらけあまや家様  
尾上うらまゝや家様  
極く子ハ長田子あまね庭様  
ことさうとあまてのらあや庭様  
様鯛小増も余所のまをこし

川二  
業  
確嶺  
葛三  
雉呼  
叢  
二三  
小哉  
確嶺

梨花  
山 梨  
杏  
海棠

いづる物うらそ七様うら様鯛  
一深のうらそいんまや様鯛  
梨花やあまの雨降あまこ  
まのまやうらの人んる梨のま  
梨のまいさうや先程のる年忌  
玉縁のるまのりひや梨のま  
山梨ありあまのまを鳴るまのま  
はひはうらまのまや世様う  
まのまうらまのまの余所う  
海棠や鯛まのうらまのま  
海棠うらまのまのまのま

素霍  
玉岱  
保吉  
長翠  
雨塘  
阿号  
長翠  
巢兆  
長翠  
龜國



海堂や海重敷のきりぎりす  
 海堂やあふみの都の鐘はしる  
 海堂や海へ押し出し雨の色  
 海堂や都の雨の色はあふみ  
 小米花 小米花のせきせきせきせき  
 片乃六初を乾くや少少花  
 小半鞠の咲きかたは白ひかり  
 小半鞠の咲きかたは白ひかり  
 紫 紫の後の花はあふみのきりぎりす  
 くらきふあふみのきりぎりす  
 藤花 任人のくらきふあふみのきりぎりす

斗筵 一朗 幸雄 以吉 長翠 楓江 碓嶺 桃吏 長翠

蓮翹 蓮翹の七つのはり  
 蓮翹の七つのはり  
 蓮翹の七つのはり  
 蓮翹の七つのはり  
 辛夷 辛夷の花はあふみのきりぎりす  
 辛夷の花はあふみのきりぎりす  
 辛夷の花はあふみのきりぎりす  
 辛夷の花はあふみのきりぎりす  
 石南木 石南木の花はあふみのきりぎりす  
 石南木の花はあふみのきりぎりす  
 石南木の花はあふみのきりぎりす  
 石南木の花はあふみのきりぎりす  
 花檜 花檜の葉はあふみのきりぎりす  
 花檜の葉はあふみのきりぎりす  
 花檜の葉はあふみのきりぎりす  
 花檜の葉はあふみのきりぎりす

素布 長翠 思月 旬光 伯夫 雄島女 乙良 桃塙 ささふ 以吉 長翠

茶摘

躑躅

赤躑躅

茶子花の影さすもあはれ  
永きものそ影と望のまを  
摘くくく河のつる、茶園  
古のの緒もまや茶摘  
先の世の茶摘の鬼の躑躅  
片のつるのあはれも  
各節の水田とるん  
躑躅咲く夕方の茶  
さす屋の双葉の  
はまのてゝ、茶も  
あつて、茶も

三彦  
柳居  
蘭更  
一具  
鼠月  
二九  
乙良  
甫十  
椿海

八七十五

紫躑躅 藤

鳥口はあつて、茶も  
茶摘や野の紫も  
物、茶摘の  
山風ハ、茶摘の  
茶摘や細き  
山と、茶摘の  
十日、茶摘の  
茶摘や紅毛船の  
茶摘や、茶摘の  
茶摘、茶摘の

保吉  
白雄  
三千彦  
成美  
阿考  
雨考  
梅史  
凉湖  
清湖

木瓜花

あうもせそあうあう木瓜花の舟

古名やん子うけう木瓜花をうら

板を子ん尾る妻や木瓜の花

芥子菘葉

芥子菘葉の月よりまはるる花

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

桜草

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

薊

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

三千彦

葛三

魚辰

千秋女

以吉

千枝岐

麓水

碓嶺

孚石

千秋女

信州綾國

ハクキ六

萱

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

あうのうめ葉あうのうめ花のうめ

白雄

几董

長翠

成美

三千彦

葛三

巢兆

謙々

禾木

春嶺

山吹

牒一さらぬまをよれふ 董  
杉の枯も晴そく久しき董うれ  
を朝まももも信ありしをむ 董  
初ももてあふりの信しゆる董  
あふりのころを好らむもむしれ  
山吹を信折るまの信の形  
山吹は家の物初り老まらう  
山吹やつ重八ちうもあつらふ  
山吹の折もやまも折らぬ  
山吹やあまこは後あまのあ  
山吹やとあは舞うけるであふ

好雨 二三 月桂 五調 弥夫 白雄 長翠 保吉 三千彦

八十七七

重山吹  
芽花

山吹の咲きまきさのうら  
山吹は一服むくき隣うれ  
山吹まのの只るる少甲うれ  
山吹のうら表まき垣根う  
山吹を横く慶る戸口うら  
山吹や朝の泣きき料理のる  
山吹やいづもまの日の厚き  
芽けけま重山吹の海のもの  
魚さけけ芽あむ秋は吹れを  
泣ぬまもあつらむ連人神は芽  
船の芽の吹あつ芽あむ

素檠 舞泉 茶静 与一女 東泉 宇南 乙良 曉臺 長翠 月居 孚石

若荷竹 月ありとあくる芽也のあの家  
 あるもあくる日にかまつく 若荷竹  
 いづのののさく 若荷竹  
 只白小物とあくる 若荷竹  
 一わたり事 若荷竹  
 山居や 若荷竹  
 水艸生 若荷竹  
 萍生 若荷竹  
 うき草や 若荷竹  
 生初る 若荷竹

乙良 亀国 浮石 霞裳 吳翠 壽磨 三千彦 白雄 長翠

芥の花 あくやまのさく 芥の花  
 あく風のうせまのさく 芥の花  
 赤人のさく 芥の花  
 森くまのさく 芥の花  
 志けいん 芥の花  
 初 鮎 初 鮎 や 思ふ 下 鮎 の 市  
 鮎 鮎 の さく 鮎 鮎 の さく  
 聲とく 鮎 鮎 の さく  
 四一 鮎 の さく 鮎 鮎 の さく  
 まけ 鮎 の さく 鮎 鮎 の さく  
 勝方もさく 鮎 鮎 の さく

玉芝 以吉 兀雨 一省 儿董 龜丈 確嶺 伯夫 椿海 茶静 小哉

かりろく後のまきくろ鶉 台 上毛十隣

貝寄風

小鳥引

鳥雲入

貝寄風の風ハ柳子のしりぞく  
後鳥や榮梅もよみ行かぬ  
いつ老る高松の松よ水も  
川風日新ぬる里ややも  
山陰や雪雀の鳴るやも  
くろぬまの折南やも  
春もあけぬるまは  
ひるもくろくやも  
まはもあけぬるまは

三千彦 恒九 三千彦 麓水 幸雄 月久 曉臺 葛三 春鶴

八七十九

麥鶉

呼子鳥

竹鳥

蚕

今初〜鶉のくろくや  
麦畑や〜のあひ  
志賀もや増穂も  
人多く〜のまき  
為新〜のまき  
〜のまき  
足指世ハ月新  
首も〜のまき  
竹も〜のまき  
ふるま〜のまき

志丈 麗水 左不 孤星 巢氷 壺半 松兄 旬光 白雄 麓水 白雄

蛇

蜂

壬生踊

保吉 護物 阿号 長翠 孤村 傾西 保吉 有月 連志 梨玉 三千彦

八十八

御身拭

御影供

蓮如忌

藪入

御身拭 御影供 蓮如忌 藪入

以吉 棄布 春鴻 桃吏 麓水 三千彦 確嶺 白雄 蕪村 蘭更

やふふのむしー 染や 志ひも

出代

出代の印く日なせきうる 持うる

出代の歴志くく 世を 信よりり

出代くくくく 家なきくくくく

出代や するもくくく 木骨の葉

炉塞

炉ふふふふ 田の地 終り鳴

塞のいんせき くれー 炉の

木地炉縁

木地ふんせき 炉縁のなきくく

木地の炉縁まのぬし 気くく

寒食

寒食まのぬし 寒食のなきく

寒食まのぬし 寒食のなきく

岳 輅  
白 雄

志 丈

白 堂

乙 良

董 齋

素 雀

碓 嶺

升 六

碩 布

八ノ八十一

春の霜

春の霜や 考のぬし ぬし

中川の持ちぬ 山や 春のぬし

二月の終り 鴨の影や 春のぬし

杉杉の影ふむ 道や 春のぬし

雪物とあしき 春のぬし

あふの岬さう 出く 春の別れ

席杖の目より 春のぬし

旅ゆくきぬ 春のぬし

新六の橋越より 別れ 春

百日よりぬ 春のぬし

行 春

護 物

保 吉

葛 三

亀 丈

董 齋

長 翠

護 物

涼 湖

麓 水

孤 星

春 鴻



行まきのとら志まらあきく行  
 孫りくらんる物あはまきや  
 行まきや思ひくくまは志はく  
 行まきや月の満山はるか  
 行まきの後子届く夕日  
 行まきやあく木のらのつ  
 新くハきりまきり蔭の門  
 行まきの手うくく山路  
 たりもたう知人あきまの行  
 行まきやとれうまきまの  
 行まきのくまきりまきの飛

春鴻  
 几董  
 保吉  
 長翠  
 葛三  
 士朗  
 長齋  
 成羨  
 一茶  
 蕉雨

ハノ八十二

行まきくこのあ結をん志まきの  
 行まきや少陰も余如の山は  
 ちやまきの行南の山のま  
 夜初のをまのしもまきの  
 行まきのおくれてくまきの  
 行まきのようけ物ある味  
 行まきやもまはれくまきの  
 黄毛の何の本まきまきの  
 行まきやむらまきまきの  
 行まきや何まきまきの  
 行まきのほくくまきまきの

静雨  
 南楚  
 二九  
 吉齋  
 素弓  
 月邦  
 森布  
 雨紅  
 玉岱

春過る 春のや 坊の 杉の 花の  
 朝のや 春のや 坊の 杉の 花の  
 春惜 春のや 坊の 杉の 花の  
 春尽 春のや 坊の 杉の 花の  
 春暮 春のや 坊の 杉の 花の

三平彦  
 月桂  
 月居  
 静雨  
 葛三  
 春嶺  
 聞鳥  
 蕪村  
 長翠  
 葛三

春暮

春の暮るを 活の 橋を 老より たり  
 旅の 暮るも あり けしき なる あり 暮る  
 暮る けしき 際 暮る や 秋 舟  
 吹風 暮る けしき あり けしき 暮る の 暮る  
 松風 暮る けしき あり 暮る の 暮る けしき  
 十の 暮る けしき あり 暮る の 暮る けしき  
 日の 暮る あり けしき あり 暮る の 暮る  
 暮る の けしき あり 暮る あり 暮る の 暮る  
 暮る の けしき あり 暮る あり 暮る の 暮る  
 暮る の けしき あり 暮る あり 暮る の 暮る

漫々  
 龜田  
 藤志  
 春嶺  
 月邦  
 静一  
 碓嶺  
 一新  
 可都里  
 董齋  
 長翠

春名残

春別

夏近き  
 夏を隣  
 春混雜  
 春の混雜  
 春の混雜

樗堂  
 三平彦  
 碓嶺  
 士朗  
 麓水  
 加比呂  
 雨兮  
 全  
 鹿古  
 素行  
 梅窓

八八十四

# 周清外史

日本馬杉繫先生著 全部廿二卷  
 清 王治本先生閱 合 十三冊  
 定價三圓廿五錢

近世所行支那略史類記事過簡ヲ實ヲ省キ怪異百出荒誕無稽讀者之厭ヲ先生慨然トシ筆ヲ抽キ上周平王ヨリ下清ノ今日ニ至ル治亂興亡謀戰忠邪跡歴々詳記シ怪異ヲ削リ荒誕ヲ糾シ姓氏ニ因テ編メテ日本外史体制ニ擬ス名ヲ周清外史トシテ弊舖之ヲ先生ニ請フ梓ニ上シ世ニ播ス四方讀史ノ各位最寄リ書肆ニ於テ此書ヲ購求シ賜ヒ其直筆精妙ニシテ疎漏ナキヲ審ヒタル幸甚

## 書肆

東京日本橋區本石町貳丁目  
 江嶋喜兵衛

